



H-II Bによる「こうのとり」の打上げ（南種子町長谷公園より撮影）

2016年12月9日(金)22時26分47秒、種子島宇宙センターから国際宇宙ステーション補給機「こうのとり6号機(HTV6)」を搭載したH-II Bロケット6号機が打ち上げられました。

「宇宙への窓口」

館長 川原裕明

カウントダウンのアナウンスに合わせた声が周囲から聞こえてきました。「3, 2, 1...」。次の瞬間、暗闇の中にまばゆいばかりの光の柱が立ち上がり、そしてゆっくりと上昇していきました。周りから一斉に歓声が上がります。しばらくすると空気を切り裂く「バリバリ」という音とロケットエンジン特有の「ヒューン」という音が体全体を包み込み、そして鼓膜を激しく振動させました。

ロケットの打上げは何度見ても格別です。今回、打ち上げられたH-II B6号機は、総重量16トンにも達する補給機「こうのとり」で、国際宇宙ステーション(ISS)へ物資や機材を運ぶ重要な役割を持っていました。このような重量

のものを高度400kmで地球を周回しているISSに運ぶのですから、そのエンジンのすごさがわかるのではないのでしょうか。

この迫力ある打ち上げを間近で見るとは、種子島に住んでいれば別ですが、なかなかハードルが高いと思われます。そこで県立博物館では、この打ち上げのシーンをビデオカメラで撮影し、宝山ホール4階の天文展示室にて紹介しています。本物の迫力には到底及びませんが、その場の「雰囲気」は感じ取っていただけるのではないのでしょうか。是非ご覧になってください。

そしていつか、「本物」の打ち上げを見ていただきたいと思います。

企画展 イモムシ・ケムシ

どんな虫?



平成29年3月25日から6月11日まで、企画展「イモムシ・ケムシ、どんな虫？」を開催します。

家庭菜園や街路樹などにケムシがついていると、「うわ！」と驚く方も多いでしょ。でも、世の中にはイモムシやケムシという生きものはいません。



チョウやガあるいはハチやコガネムシの仲間の幼虫が、いわゆる「イモムシ・ケムシ」と呼ばれています。

幼虫とは、栄養を吸収する特殊な生活段階です。モリモリ食べて成長し、サナギになるための準備をする時期なので、遠く離れた場所に移動するのは苦手ですし、子孫を残す配

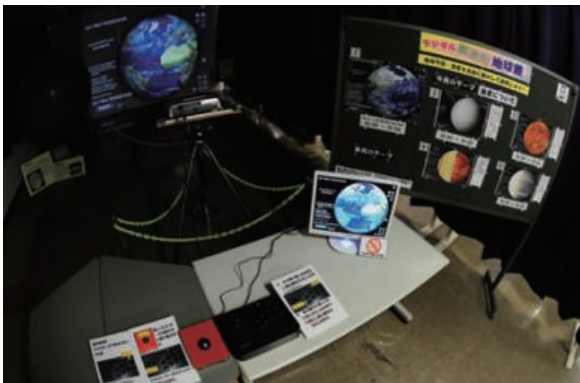
偶行動をすることもありません。鳥や肉食の昆虫、あるいはハチなどの寄生者などに食べられることも多く、それを防ぐために周囲に溶けこむ模様をしたり、巣を作って防いだりします。そしてサナギの間から体を大きく作りかえ、成虫となって子孫を残します。そんな幼虫たちの生活を紹介します。彼らの不思議な生き方をご覧に入れます。

「イヤ！」と毛嫌いする前に、どんな暮らしをしているのか、ちょっと覗いてみませんか？



モンシロチョウの幼虫

デジタル四次元地球儀（ダジックアース）導入しました！

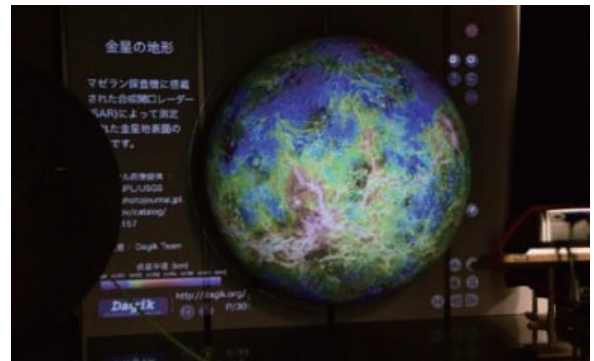


デジタル四次元地球儀全景

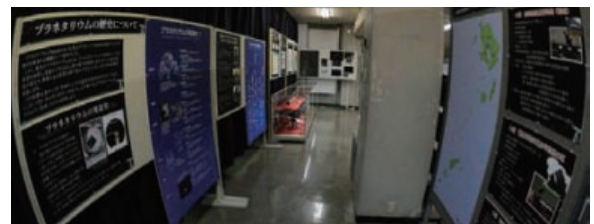
プラネタリウム開設50周年を記念して、別館（宝山ホール4階）天文展示室の展示内容をリニューアルし、デジタル四次元地球儀（ダジック・アース）を導入しました。

直径2mのバルーンにプロジェクターで地球を始め、他の惑星などを投影し、ジョイスティックやトラックボールマウスで自由に回転させることができます。

現在は、月毎にテーマを決めて投影してい



投影した「金星の地形」



天文展示室には他の設営もあります。デジタル四次元地球儀でいろんな星を回転させて、新たな発見をしてみたいはいかがでしょうか。

人と共に生きる鹿児島島の自然遺産収集保管事業

鹿児島県は南北に長く、多くの離島を有しています。そのため各地域ごとに環境が異なり生育する生物も様々です。それらの分布状況を明らかにする目的で、平成28年から32年までの5年間「人と共に生きる鹿児島島の自然遺産」収集保存事業を行っています。

植物分野は今年度、口之島や甕島、口永良部島等で資料収集を行いました。今回は収集した資料の一部をスキャナーで取り込むス

キャノグラフィーという手法で画像化しました。スキャナーを利用することで写真よりも細かな特徴を捉えることができます。今後、展示室にて公開を予定しています。

また、県内で確認されている植物の中には研究が進んでいないため名前がはっきりしないものもあります。今年度はその中でもカンアオイの仲間注目して資料収集を行いました。今後、収集した資料を比較検討し、分からないことを明らかにしていく予定です。



甕島の固有種コシキイトラッキョウのスキャノグラフィー画像



トカラ列島の固有種トカラノギクのスキャノグラフィー画像



口之島のトカラカンアオイ



屋久島のクワイバカンアオイ

博物館でボランティアをしてみませんか

県立博物館にはボランティアの会が二つあります。一つは中学生・高校生を対象とした「中・高校生ボランティアの会」、もう一つは大学生や一般の方々を対象とした「博物館ボランティアの会」です。28年度の会員はそれぞれ、47人、9人でした。

中・高校生ボランティアの会の主な活動は楽しい実験の補助や材料作製ですが、会員の中には、展示やプラネタリウムの解説に取り組んだ人もいます。

博物館ボランティアの会の主な活動は、植

物・昆虫・岩石の標本の登録や整理です。特に専門的な知識のある人は標本の製作なども行っています。

ボランティアの仕事は、少し地味に見えますが、博物館にとって欠くことのできないとても大切な仕事なのです。

平成29年度も県立博物館はボランティアを募集します。鹿児島島の自然や博物館の活動に興味をお持ちの方、博物館の縁の下の力持ちになってみませんか。多くのご参加をお待ちしています。



中・高校生ボランティアの活動
(楽しい実験の材料づくり)



博物館ボランティアの活動のようす
(昆虫標本登録・整理)

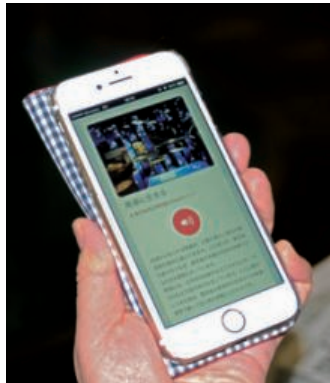
展示紹介

スマホでの展示解説



館内の展示をご覧いただくと、これまでなかった番号入りのサインが各所に掲示されていることにお気づきになると思います。これは、入館者が自分のスマートフォン等を使って展示解説を視聴できるという、今年1月から始まった新しい展示解説サービスなのです。

無料アプリ「ポケット学芸員」をスマートフォン等にインストールして、展示についている番号を入力すると、その展示の音声ガイドを聞くことができます。さらに、音声ガイドは日本語・英語・中国語（簡体字）の3か国語に対応しているので、特に外国からお越しの方に役立てていただけることを期待しています。



このサービスでは音声ガイドのほかに、解説文や動画なども閲覧することができます。

また、このアプリはAndroidとiOSの両方の端末に対応しているので、ほとんどのスマートフォンやタブレットでご利用いただくことができます。

次回、当館をご利用の際は、ぜひスマートフォンとイヤホンを持ってご来館ください。展示内容をより深く理解して、これまで以上に博物館を楽しんでいただけるよう願っています。

学芸室の窓から

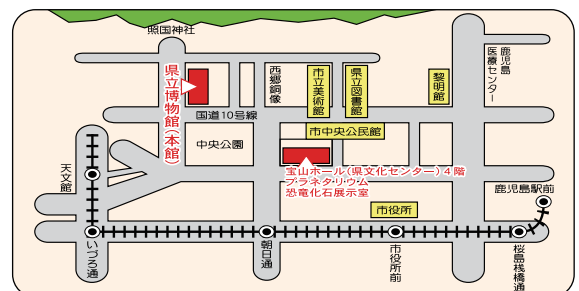
昨年の11月23日から27日までの5日間、屋久島町で移動博物館を開催しました。鹿児島島の自然のすばらしさを中心とした、「本物の持つ魅力」を届けるため、コンテナ2台分のはく製や標本など約2,000点を展示し、延べ約3,800人の方に参加していただきました。展示や実験に目を輝かせ、理科工作に夢中になって取り組む子供たちの姿を見て、屋久島で開催できたことを心から嬉しく思いました。

移動博物館では自然観察会や星空観察会などの野外活動も行いました。23日の自然観察会（昆虫分野）は実施できたのですが、27日の自然観察会（植物・地質分野）は悪天候のため中止、星空観察会も天候が悪く、昨年の奄美大島に引き続き、屋内での活動になってしまいました。今まで「雨男」として君臨していた昆虫担当K氏は晴れて「雨男」を卒業し、天文担当U氏は現状どおりの「曇り男」、そして植物担当K氏と私が新たに「雨男」の称号を与えられたのでした。（T）



移動博物館展示会場の様子

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号
TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080



ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>